

# 九州女性技術者の会（九WE会）について

柴田 真衣<sup>1</sup>・北村 明政<sup>1</sup>・富本 和也<sup>1</sup>

<sup>1</sup>九州地方整備局 企画部 企画課（〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 2-10-7）

九州女性技術者の会（以下「九WE会」という）は、九州地方整備局の女性技術者により構成され、九州地方整備局の魅力や技術の向上、いきいきと働くことができる職場づくりなどを目的として活動している。現在、九WE会の会員数は、九州地方整備局に所属する女性技術者（土木・建築）121名となっている。今回は、近年の九WE会の活動状況について紹介するとともに、今後の課題について報告する。

**Key Words:** 九州女性技術者の会, 九WE会, 多様化, 女性技術者の増加

## 1. はじめに

近年、建設業界において男女問わず働きやすい職場にしていくことは、仕事の環境や進め方に変化をもたらし、効率的で快適な職場環境の整備に繋がっている。例えば、長時間労働やワークライフバランスなどこれまで男性だけでは解決できなかったことが挙げられる。いきいきと女性技術者が活躍することは業界に新たな活力や刺激をもたらし、業界全体が活性化していくことに繋がる。

そのような中、九州地方整備局では2007年3月に九州女性技術者の会（九WE会）を設立した。九WE会とは、九州地方整備局の女性技術者で構成され、意見交換や現場見学等の活動を通して職場環境の改善やリクルート活動、女性技術者の活躍推進等を行っている。

九WE会の活動目的としては以下の通りである。

1. いきいきと働くことができる職場づくり
2. 九州地方整備局の魅力、技術の向上
3. 情報交換によるモチベーションの向上
4. 技術者同士の知識の向上
5. 技術者を目指す女性へのアドバイス



図-1 九州女性技術者の会（九WE会）のロゴ

九WE会という名前には、“WE”（私たちみんなで乗り越えよう）“Enjoy With”（一緒に楽しむために）という意味が込められている。設立当初は、結婚・出産・育児等をする女性技術者が働きやすくなるような取り組みを行ったり、女性技術者同士の繋がりを強化したりする活動を主としていたが、会設立から13年間の継続によりリクルート活動や土木の魅力発信などにも現在、活動の幅を広げている。



写真-1 九WE会 全体会議

## 2. 近年の活動内容

九WE会の5年間の活動方針は、

- ① リクルート活動への参加・九州地方整備局のPR活動
- ② 「働きやすい職場、家庭・子育てとキャリアの両立」に向けた取組推進
- ③ 他機関及び企業等との連携（ネットワークづくり）
- ④ 土木の魅力の発見・発信（未来の担い手確保）である。

具体的にどのような活動を行っているのかを項目毎に分け、次のように整理した。

### (1) リクルート活動への参加・九州地方整備局のPR活動

九州地方整備局とで開催された『官庁合同業務説明会』では、九WE会の会員は自らの経験・キャリアパス等を説明し、整備局の魅力と働きやすい職場であることをPRした。

また、『女性技術者のための職場訪問会』に九WE会の会員が参加し、学生が実際に職場を訪問し職場の雰囲気、職場の魅力、就職に関する悩み相談等を実施した。

九州地方整備局や建設業の魅力UPに向け、女性職員による仕事内容、やりがい、プライベート等の紹介を数年前からFacebook・Twitterの採用特集で掲載している。

大学生や高校生にも親近感を与えるため、若手職員を積極的に活用している。



写真-2 業務説明会の様子

### (2) 「働きやすい職場、家庭・子育てとキャリアの両立」に向けた取組推進

令和元年度の「九WE会」全体会議では、九州地方整備局の女性技術者（総勢約50名）が一同に会し、働きやすい職場づくりを目指すこと、土木の魅力発見・発信（未来の担い手確保）を目的に、2つのテーマで意見交換を実施した。

- ① 女性が働きやすい職場環境づくり
- ② 女性技術者（高校生・大学生等の予備軍）を増やす取組

職場環境については、以前から改善した点もあれば、まだ不満や疑問を抱えていることが分かった。官民交流会については、同じ立場の人の意見を聞くことや、業務改善の意見にもみられた、男性の意見を聞き意識共有を図ることが求められていると分かった。

また、女性技術者を増やす取組については、夏休みに自由研究のお手伝いとして現場見学会を開催することやVR体験など小・中学生に向けたPRを行っていくことが重要ということが分かった。

### (3) 他機関及び企業等との連携（ネットワークづくり）

他機関及び企業等とのネットワークづくりとして、昨年度に引き続き、官民の女性技術者交流会を開催した。参加団体は10団体（九WE会、福岡県、水資源機構筑後川局、福岡北九州高速道路公社、NEXCO西日本等）で総勢40名が参加した。交流会は、九州地方の女性技術者が世代別に課題や解決策等について意見交換し、世代間の理想とする目標を立てて具体的な行動にしていけるためのライフロードマップを作成した。

20、30、40代の世代毎に分かれて話し合い作成されたライフロードマップでは、各世代の特徴が表れる結果となった。20代は仕事ではさまざまなことに挑戦し、プライベートでは結婚相手に求める要件など、30代は出産や子育て、マイホーム購入などが主であった。

40代は仕事では「40歳、50歳で昇進、60代までに社長や局長になる」、プライベートでは「第2の人生に向けた体力づくり」など他の世代より詳細な目標を設定した。

最後には各世代で議論した結果を発表し、課題を共有した。課題として挙げられたのは20代がコミュニケーションや技術力不足、結婚に関すること。30代と40代が仕事量と体力、心の余裕などが意見としてあった。



写真-3 ライフロードマップ

また、福岡開催だけでなく宮崎県でも昨年に引き続き女性技術者の交流会が開催された。テーマを「防災」とし、防災時家具の製作体験や被災経験者を招いて災害時に女性が直面する問題等の講演頂いた後、参加者全員で意見交換を行った。宮崎の継続は、女性技術者のネットワークの広がりある良い事例とも言える。

### (4) 土木の魅力発見・発信

昨今、九州地方整備局及び建設コンサルタンツ協会では、若手・女性技術者の活用促進が業務円滑化の重点課題として挙げられている。課題の共有・解決に取り組み、官民一体となった魅力ある業界づくりに繋げていく

ことを目的として意見交換会が開催され、九 WE 会から 4 名が参加した。

意見交換会でた課題としては、

- ・若手・女性技術者が現在置かれている立場はどのような状況か
  - ・仕事のやりがいやモチベーションについて 等
- 働き方改革に関する取り組み等について情報交換することにより、若手と女性技術者ならではの疑問や悩みが表れた意見交換会となった。



写真-4 意見交換会の様子

### 3. 活動の成果

子育て・介護等制度の普及もあり、これまで九 WE 会の取り組みだけの成果とは言えないかも知れないが、女性技術者の働きやすい職場へ着実に変化していることが分かることを下記に挙げる。

#### ○育休・産休後の職場復帰率

九州地方整備局では、育児休暇後の女性の職場復帰割合が以下のような結果になっている。

- ・「復帰せず又は復帰後に辞職」…3.4%
- ・「復帰」…96.6%

(H26～31)

また、建設業 5 団体における女性職員の職場復帰率は、図-2 の通りで、九州地方整備局の女性技術者に比べると復帰率が低いことが分かる。

このことから、九州地方整備局は建設業界においても、高い職場復帰率を誇っており、プライベートと仕事の両立がしやすくなっているといえる。

	出産者数	育休取得者数		復職者数
		取得者数	割合	
技術者	462 人	458 人	99.1%	302 人
	100.0%			65.4%
技能者	11 人	10 人	90.9%	6 人
	100.0%			54.5%
事務系職員	1,101 人	1,088 人	98.8%	749 人
	100.0%			68.0%

図-2 建設業 5 団体における女性の復帰率について

#### ○女性技術者の増加

現在、現場見学会や各大学・高校・本局での業務説明会、また座談会等のリクルート活動を行っているため、女子学生が現場見学会や業務説明会に以前と比べて多くの参加となっている。また、写真-5 のように女性技術者のための職場訪問会もあわせて行っていることから女性技術者の活躍や生活をより詳細に聞けることで女子学生の入省に繋がっている。



写真-5 女性技術者のための職場訪問会のチラシ

近年の工学女子の増加率は、図-3 のグラフの通り、他の理系学科に比べても増加してきており、大学入学者に占める理系女子の割合は 40 年間で 27 ポイント増加し、工学部では女子の入学者数が 40 年間で 808 人から 1 万 3,556 人に増加した。

また、工学女子の増加と同様に、九州地方整備局の女性技術者数も増加していることが分かる。

図-4 から分かるように、九 WE 会設立当初は 57 名だった女性技術者の数は現在 121 名にも及んでいる。

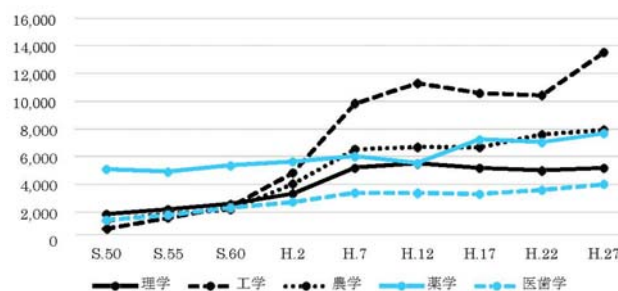


図-3 各分野の入学者に占める女子の割合

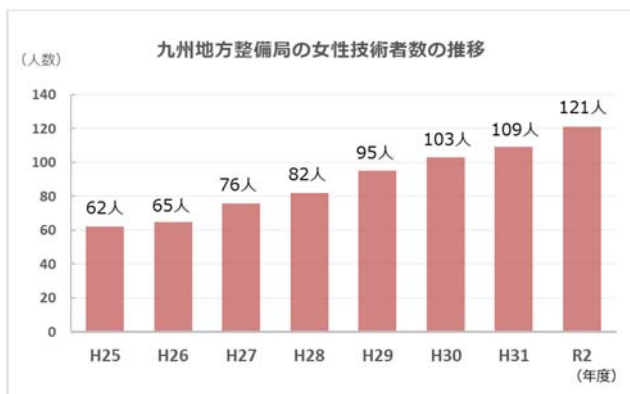


図-4 女性技術者数の推移

### ○女性技術者独自の取組

女性技術者は、早出遅出出勤やフレックスタイム制度、作業服の改善、H29年度にはテレワーク試行などを率先して取り組んできた。

今年4月に発令された緊急事態宣言により、九州地方整備局では、全職員を対象としたテレワーク業務の実施となったが、今回、本格的に行われたテレワークは、H29年度試行時に作成した運用をベースとしており、その際試行した女性技術者達からの意見を元に改善を行っていたため、全職員に展開時もスムーズに実施できたといえる。

また、早出遅出出勤やフレックスタイム制度に関しては、小さな子供を持つ女性技術者等が積極的に利用している。他機関に比べると、選択できる勤務時間や産休・育休の休暇などさまざまな制度が整って働きやすくなっており、もちろん女性だけでなく男性も取りやすい環境となり、制度利用は増えている。

## 4. 今後の課題

前述のように、これまで何年も続けてきた九WE会の取り組みは継続性があり、成果もあったといえる。これからも九WE会の活動を継続していき、新しい取り組みやそれに伴った成果を報告できるようにする。

今後の九WE会の課題として挙げられるのは2つある。

まず1つめは、「女性技術者の多様化」である。設立当時は制度も少なく、結婚・子育てに特化した活動部分もあったが、時代の変化により女性技術者のライフプランも様々であることから、多様化が求められるようになった。例えば、結婚して子育てをしても、職場に復帰できることや、女性技術者の増加によって、女性技術者が男性技術者同様に活躍していくこと等が多様化に向けた取り組みの一つといえる。2つめは、「民間企業との繋がりを強化」することである。情報交換を行って良い取

り組みを取り入れたり、女性技術者ならではの課題や意見を話し合って解決を目指したりすることでさらに官民それぞれの女性技術者が活躍できると考える。

## 5. まとめ

近年女性技術者が増加していることは、技術職員の3割を女性にすることを目指す九州地方整備局にとって、とても誇らしいことである。しかし、さらに女性技術者を獲得するためには、次世代女子へのPRとして職場環境やさまざまな制度をより整えこの仕事の魅力や女性技術者の活躍を発信していくことが重要と考える。

九WE会は今ある課題の解決や、新しい取り組み、引き続き行っていく取り組み、女性技術者の活躍推進等に努め、これからも活動を行っていく。